

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

自分たちが生きる上で欠かせない権利の大切さを考えるとともに、互いのよさと違いを認め合い、自他を尊重して生きていこうとする意欲と実践力を育てる。

実施した内容

- ・子どもの権利条約について理解する。また、世界の子どもたちの現状についての動画を視聴し、守られている権利や参加する権利の重要性について話し合う。(1時間)
- ・「ひび割れ壺」(“あわ”人権学習ハンドブック)を読み、それぞれのよさを尊重し合うことの大切さを話し合う。(1時間)

工夫した点

- ・学習の導入時に、自分にとって様々な権利の重要度がどの程度であるかポジショニングマップに位置付け、互いに意見交換をするアクティビティを行うことで、一人一人の違いを認識し、多様な考え方を尊重し合うことの大切さに気付けるようにした。

他教科との
関連

学級活動にて、アサーショントレーニングやリフレーミング、ペアトークなど、互いを尊重し合う人間関係を築くための活動に取り組んだ。

事業成果

- ・知識的側面：「子どもの権利条約」の権利を2つ以上知っている。20%→81%
- ・価値・態度的側面：自分を大切にしている。70.5%→76.7%
- ・技能的側面：自分と異なる価値観をもつ友達に対しても関わることができる。86%→88%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

男女が互いに人権を尊重し、責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮する中で、多様な選択が可能となる社会の実現をめざそうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・生徒会活動（人権委員会）の「人権フォーラム」の取組において、女性の雇用に関する新聞記事や男性の育児参加に関する新聞記事を取り上げ、全校生徒が自分の考えを付箋に書き、学級ごとにまとめ、掲示した。

工夫した点

- ・家庭にも記事を持ち帰り、保護者にも付箋に意見を書いてもらうことで、家庭との連携を図った。また、人権通信を発行し、意見の抜粋を掲載した。

他教科との
関連

社会科（公民）にて、「男女共同参画社会基本法」について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：女性に関する人権問題について知っている。80%→90%
- ・価値・態度的側面：友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切だと思う。95%→96%
- ・技能的側面：自分の意見をしっかりと伝えられる。56%→64%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者に対し，エイジズムをもって接することのないよう，高齢者自身の思いを理解し，社会を共に生きる意識を育てる。
- ・高齢者の思いや願いを大切にし，高齢者が幸せな気持ちでいられるように温かい言動で関わろうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・高齢者の疑似体験を行い，高齢者に対する理解を深める。（1時間）
- ・高齢者が生きづらさを感じる具体的な場面について，高齢者の気持ちを考え，自分たちにできることを考える。（1時間）

工夫した点

- ・疑似体験を行う際に，高齢者の気持ちだけでなく，介護者や周りの人の気持ちも考えることで，高齢者を取り巻く課題を多角的に捉えられるようにした。

他教科との
関連

道徳科にて，「ごめんね，おばあちゃん」「注文をまちがえる料理店」を学習した。

事業成果

- ・知識的側面：エイジズムという言葉を知っている。28%→81%
 - ・価値・態度的側面：高齢者に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。52%→72%
 - ・技能的側面：人が困っているときは，進んで助けている。73%→75%
- 上記のほか，普段の生活の中で，高齢者への差別が起こっていないか，年齢や見た目人で決めつけていないかなどを意識して過ごすようになったと答える生徒が多数いた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

障がい者

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

障がい者の社会参加や自立を阻んでいる様々な障壁をなくしていくことの大切さを知り、共に生きる社会の一員として、自分にできることを実践しようとする意欲と態度を養う。

実施した内容

- ・障がい者が生活で困るであろうことやその原因についてグループで話し合う。(1時間)
- ・物理的障壁や制度的障壁でなく、心の障壁を取り除くことの大切さについて考え、そのために自分たちにできることを話し合う。(1時間)

工夫した点

- ・言葉を使わずに仲間探しをするアクティビティを行うことで、自分たちが当たり前に使っているツールがない活動を体験し、生活上の困難を想像しやすくした。

他教科との
関連

家庭科にて、ユニバーサルデザインについて学習した。

事業成果

- ・知識的側面：様々な考えや個性をもつ人々と暮らしていることを理解している。92%→92%
- ・価値・態度的側面：障がい者に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。58%→79%
- ・技能的側面：人の話や意見を最後までよく聞くことができる。88%→92%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

今なお残る部落差別に憤りを感じ、同和問題を自分自身の問題として捉え、差別解消に向けて、主体的に行動しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・1年生では、「牛のかたき打ち」を題材に、差別の構図を捉え、部落差別が当時の為政者により、都合よくつくられたものであることを理解した。また、被差別の立場に置かれた人々の苦しさや差別への憤りを感じとった。
- ・2年生では、「水平社宣言」について学び、不当な差別を受け、苦しみ続けた人々が、人間を尊重することを訴えた想いや願いについて話し合った。
- ・3年生では、部落差別解消推進法について学習した。また、就職差別と結婚差別を題材に、無知、無関心、自分の心の中にある偏見と向き合うことが大切であることを理解し、差別解消に向けて自分たちにできることを話し合った。

工夫した点

- ・外部講師に講演を依頼し、ご自身の体験をお話いただくことで、今なお残り続けている問題である、生徒にとって自分と関係のある問題であることを実感できるようにした。

他教科との
関連

社会科にて、江戸時代の身分制度や解放令などを学習した。

事業成果

- ・知識的側面：現在も部落差別が存在することを知っている。66%→86%
- ・価値・態度的側面：同和問題を解消するために行動しようと思う。65%→74%
- ・技能的側面：嫌なことを言われたりされたりしている人がいたら、助けることができる。77%→77%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・社会科（地理）

目標・人権教育のねらい

アイヌの歴史と差別の実態を正しく理解し、アイヌの人々の思いを考え、アイヌの文化を尊重し、差別を解消しようとする意欲を高める。

実施した内容

- ・アイヌの歴史や文化、差別の実態など、グループごとにテーマを決めて調べ学習を行い、発表する。（1時間）
- ・世界の他の少数民族についても知り、異文化を理解、尊重することの大切さや、誇りをもって生きられる社会の実現に向けて自分たちに出来ることについて話し合う。（1時間）

工夫した点

- ・決めたテーマについて調べるだけでなく、そのテーマに関してアイヌの人々がどんな思いや願いを持っているかを想像し、クラスで共有した。

他教科との
関連

総合的な学習の時間にて、外国人差別、同和問題について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：アイヌの人々に関する人権問題について知っている。46%→78%
- ・価値・態度的側面：アイヌの人々に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。15%→63%
- ・技能的側面：仲間と協力して、学習活動に取り組むことができる。89%→90%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

在留外国人が抱える異文化・異民族の中で暮らしている不安や不自由さに気付き、だれにとっても暮らしやすい環境をつくろうとする意欲と実践力を育てる。

実施した内容

- ・自分が海外生活で困りそうなことについて意見交換をし、日本で暮らす外国人が様々な生きづらさ抱えていることを理解する。(1時間)
- ・「やさしい日本語」に言い換える活動を行い、相手に配慮したコミュニケーションの重要性を学ぶ。(1時間)

工夫した点

- ・「やさしい日本語」に言い換える活動に実際に取り組んでみることで、日常生活での活用を意識するようになるとともに、外国人だけでなく、だれにとっても分かりやすく、暮らしやすい環境につながることに気付けるようにした。

他教科との
関連

家庭科にて、ユニバーサルデザインについて学習した。
道徳科にて、「六千人の命のビザ」を学習した。

事業成果

- ・知識的側面：外国人に関する人権問題について知っている。80%→88%
- ・価値・態度的側面：外国人に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。40%→79%
- ・技能的側面：相手の立場に立って物事を考えることがある。83%→85%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

HIV感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・保健体育科

目標・人権教育のねらい

HIVやAIDSについて正しく理解し、HIV感染者やAIDS患者に対する偏見や差別をなくしていこうとする意欲と態度を養う。

実施した内容

- ・ HIVやAIDSについて、病気の症状や感染経路、予防などを正しく理解する。（1時間）
- ・ HIV感染者やAIDS患者に対する偏見や差別をなくし、共に生きる社会を築くために、自分たちにできることを話し合う。（1時間）

工夫した点

- ・ これまで学習したハンセン病に関する人権問題や新型コロナウイルス感染症に伴う偏見や差別について振り返る機会を設けることで、正しい知識をもって判断することの大切さを実感できるようにした。

他教科との
関連

学級活動や総合的な学習の時間にて、ハンセン病に関する人権問題や、新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：正しい知識を身に付けることは大切であると思う。92%→94%
- ・ 価値・態度的側面：HIV感染者等に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。33%→80%
- ・ 技能的側面：知り得た情報が正しいかどうか吟味したり分析したりすることができる。75%→78%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

ハンセン病について正しく理解し、ハンセン病患者や回復者、その家族等への偏見や差別について考えることで、だれもが安心して共に生きられる社会を実現しようとする実践力を育てる。

実施した内容

- ・映像資料をもとに、ハンセン病について正しく理解するとともに、ハンセン病患者等が受けた偏見や差別による苦悩を共感的に受け止め、憤りをもたせる。(2時間)
- ・人権講演会「今、私たちがハンセン病問題を学ぶ意味」(2時間)
- ・国立療養所「大島青松園」の入所者の方とのオンライン交流学習(2時間)
- ・ハンセン病回復者の思いを受け止め、誰もが安心して共に生きられる社会を実現するために自分たちにできることを話し合う。(1時間)

工夫した点

- ・映像資料を取り入れることで、生徒の関心をひき、ハンセン病の正しい知識やハンセン病患者等への差別を生んだ歴史を正しく理解できるようにした。
- ・当事者との交流学習をオンラインで行うことで、コロナ禍や遠隔地でも、直接繋がることができるようにした。

他教科との
関連

道徳科にて「いのちを見つめた作家 北條民雄」を学習した。

事業成果

- ・知識的側面：ハンセン病に関する人権問題について知っている。46%→96%
- ・価値・態度的側面：人権問題を解消するために何をすべきか考え、行動しようと思う。84%→93%
- ・技能的側面：人の意見をしっかりと聞き、自分の意見を伝えることができる。75%→84%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

刑を終えて出所した人

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

刑を終えて出所した人の人権について理解し、だれもが安心して生きられる社会を築いていこうとする意欲と実践力を育てる。

実施した内容

- ・「刑を終えたAさんは今」（わたしの願い）を読み、だれもが安心して生きられる社会を築くために自分たちにできることを話し合う。（1時間）

工夫した点

- ・犯罪被害者等の人権課題学習と関連付けて学習を行うことで、犯罪が起こることで生じる人権問題を多面的・多角的に考えることができるようにした。

他教科との
関連

社会科（公民）にて、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：刑を終えて出所した人の人権について理解している。65%→87%
- ・価値・態度的側面：刑を終えて出所した人の人権問題を解消するために行動しようと思う。25%→72%
- ・技能的側面：自分自身の中や日常生活にある偏見や差別を見きわめることができる。76%→79%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

犯罪被害者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

犯罪被害者等の人権について理解し、だれもが安心して生きられる社会を築いていこうとする意欲と実践力を育てる。

実施した内容

- ・犯罪被害者の家族が社会から孤立させられていく「排除の構造」について理解し、苦悩する被害者家族の姿を共感的に受け止める。（2時間）
- ・校外学習「裁判所訪問」～模擬裁判体験～（2時間）
- ・「面会」（わたしの願い）を読み、筆者の願いを受けとめ、だれもが安心して生きられる社会を築くために自分たちにできることを話し合う。（1時間）

工夫した点

- ・「排除の構造」について学び、これまで学習した様々な人権課題に共通している問題であることに気付かせ、振り返る機会をつくった。
- ・徳島地方裁判所にご協力頂き、模擬裁判を体験した。裁判において、被告人の人権が守られている制度について学び、被害者の人権が未だ十分に守られていない現状について考えた。

他教科との
関連

社会科（公民）にて、基本的人権、裁判所のしくみについて学習した。

事業成果

- ・知識的側面：偏見や差別によって社会から孤立、排除されるしくみについて理解している。67%→87%
- ・価値・態度的側面：犯罪被害者等に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。45%→75%
- ・技能的側面：複数の意見から合意形成に向けて話し合うことができる。76%→80%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・学級活動

目標・人権教育のねらい

インターネットによる人権侵害の危険性を理解し、自分の言動に責任をもち、他者とよりよい人間関係を築こうとする態度を養う。

実施した内容

- ・ SNSへの書き込みからトラブルに発展した事例の動画を見て、問題点や改善点などをグループで話し合う。(1時間)
- ・ インターネットやSNS等を使うときに大切なことをグループで話し合う。(1時間)
- ・ 正しいネット利用啓発講演会を実施する。(1時間)

工夫した点

- ・ 直接書き込みをした加害者だけでなく、周りの人による情報の拡散にも問題があることに気付かせ、普段の生活で悪意なくとっている行動を振り返る機会をつくった。
- ・ 学習した内容を学級掲示したり、学年通信や生徒指導通信に掲載して保護者にも連携を図ったりして、相手への思いやりをもって安全・安心な利用ができるよう多方面から啓発した。

他教科との
関連

生徒会執行部で、スマホ・SNS等の利用について話し合い、全校生徒に適切な利用を呼びかけた。生徒会活動において、ネット上での誹謗中傷に関する新聞記事を読み、意見を書いた。道徳科にて、「言葉のむこうに」を学習した。技術科にて、「情報モラル」について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：インターネット上での人権侵害の具体例を知っている。87%→95%
- ・ 価値・態度的側面：偏見や差別を許さない態度を身に付けている。84%→87%
- ・ 技能的側面：他者の気持ちを想像して、行動することができる。84%→87%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題等

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・社会科（公民）

目標・人権教育のねらい

北朝鮮当局による拉致問題等の実態と拉致被害者家族の思いや願いを知り、拉致問題に関心をもって解決にむけて関わっていかうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・ 拉致問題等の実態について知り、人権侵害であることを理解する。（1時間）
- ・ 拉致被害者やその家族の思いや願いについて考え、グループで話し合う。（1時間）

工夫した点

- ・ 拉致問題は許されない人権侵害であり、その事実と被害者や被害者家族の思いに寄り添うことに重点をおいて学習をすすめるようにし、北朝鮮の国民や在日朝鮮人の方々への批判的な見方や差別につながらないように十分注意した。

他教科との
関連

総合的な学習の時間にて、子どもの人権について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：北朝鮮当局による拉致問題等に関する人権問題について知っている。54%→84%
- ・ 価値・態度的側面：北朝鮮当局による拉致問題を解消するために行動しようと思う。26%→68%
- ・ 技能的側面：相手の立場に立って、気持ちを受け止め、共感的に理解することができる。87%→87%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

性的指向, 性自認

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

多様な性の在り方について理解し、LGBTQへの偏見や差別について考え、誰もがありのままの自分で生きられる社会を実現しようとする意欲と態度を育てる。

実施した内容

- ・多様な性の在り方について、正しい知識と理解を深める。(2時間)
- ・講演「女らしく男らしくよりもあなたらしく生きる～性の多様性について～」(2時間)
- ・性的マイノリティ当事者・支援者の方々との交流学习(2時間)
- ・だれもが居心地よく生きられる社会の実現に向けて自分にできることを考える。(2時間)

工夫した点

- ・学習することで、生徒の予期せぬカミングアウトに繋がる可能性があるため、他人のセクシュアリティを詮索してはいけないことや、悩んだり困ったりした場合は相談してほしいということを第1次の授業で生徒に伝えた。
- ・アウティングによる人権侵害について学習し、当事者や支援者の方々との交流学习及びその後についても、自他のセクシュアリティを尊重した言動がとれるよう十分注意した。

他教科との
関連

生徒会活動において、ジェンダーレスの制服に関する新聞記事を読み、意見を書いた。

事業成果

- ・知識的側面：性的マイノリティ(LGBTQ+)という言葉の意味を知っている。35%→97%
- ・価値・態度的側面：社会をよりよくするために、何をすべきか考えることがある。76%→91%
- ・技能的側面：よい集団をつくるために、仲間と協力して行動することができる。88%→93%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島市富田中学校

人権課題

防災と人権

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

人と人とのつながりの大切さを学び、生活の中で自分にできることを考え、行動できる実践力を養う。

実施した内容

- ・自分たちの住む地域を知り、共に生きる人を知ることの大切さを理解する。（1時間）
- ・校外学習として訪問した北淡震災記念公園での施設見学と講話から感じたことや考えたことを話し合う。（1時間）
- ・「16歳の語り部」（ポプラ社）（抜粋）を読み、自他の命の大切さに気づき、災害時に自分にできることを考える。（3時間）

工夫した点

- ・防災学習と関連して、生命の尊さについて考えられる学習の機会を多く取り入れた。助産師を講師にお招きし、乳児人形に触れたり、妊婦さんへのインタビュー動画を見たりして、自他の命の尊さを感じられるようにした。
- ・地域の自主防災会長から講話をいただき、地域の一員として自分たちにできることは何かを考えた。

他教科との
関連

道徳科にて、「命を見つめてー「命」「生きること」ー」（わたしの願い）を学習した。

事業成果

- ・知識的側面：全ての人大切にされなくてはならないと思う。92%→95%
- ・価値・態度的側面：自分のよさがわかり、自分自身の命を大切にしている。86%→89%
- ・技能的側面：自他の命を大切に言動をとることができる。80%→90%